

は、まよって しまいました。

「やっち、いっしょに いこうよ。さあ、ぼくの 手に つかまってる。」

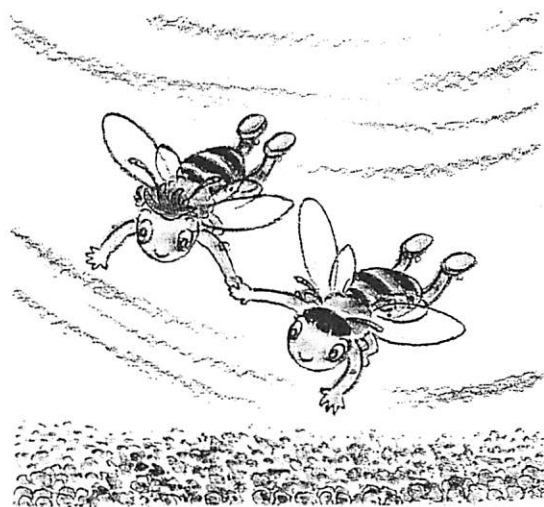
「そんな ことを したら、ゆっきが おくれるよ。」

「いいんだよ。」

「ありがとう ゆっき。」

やっちは、はずかしそうに いいました。ゆっきと やっちは、ならんで とんで いきました。

ふたりの ほほに あたる かげは、とても さわやかでした。



#### 4 たけしの でんわ

「はい、いはらです。」

「どちらさまでしょうか。」

「はい、わかりました。しばらく

おまちください。」

たけしくんは、でんわを おくと、  
だいどころに いる おかあさんを  
よびに いきました。

「おかあさん、こまつさんと いう





人から でんわだけど。」

「そう。じゃあ、すぐ 出るわね。」

おかあさんは、手を ふきふき でんわに 出ました。

おかあさんは、しばらくの あいだ、はなしを して いました。もどって くと、

「たけしの でんわの うけかたが とても りっぱだって、

おかあさんまで ほめられたわ。『いま、でんわに 出られ

た かたは、六年生の ぼっちゃんですか。』って。」

と、うれしそうに はなしました。

「また かかって きたら、きちんと おはなし してね。」

おかあさんは そう いうと、また いそがしそうに、夕ご

はんの したくに とりかかりました。  
プルルル プルルル。

また、でんわが かかって きまし  
た。

「はい、いはらです。」

「いいえ ちがいます。こちらは、九、  
二、三、五です。」

「どう いたしまして。」

たけしくんが でんわを おくと、  
おかあさんが だいどころから やっ  
て きました。

「まちがい でんわだったよ。」

「そうだったの。また、おかあさんが ほめられるのかと

おもったけど、まちがい でんわじゃ、ざんねんね。」

おかあさんは、いたずらっぽく わらいました。

「でんわなら、ぼくに まかせて おいてよ。」

たけしくんは、げん気よく こたえました。



## 5 ぼくが するよ

きゅうしよくじかんが、はじまりました。まさおくんは、きゅうしよくぶくろの 中から、エプロンと ぼうしを 出しました。でも、マスクが 入って いません。ぶくろの 中を なんかい のぞいて みても、見つかりません。「おかあさんが 入れるのを わすれたんだ。」と おもうと、だんだん はら が たって ききました。

まさおくんは、しかたなく、

「先生、おかあさんが マスクを 入れて くれて いませ

# 4 たけしの でんわ

2-①) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。(礼儀)

## □主題設定の理由

### 〈ねらいとする価値について〉

気持ちのよい言葉遣いをすると、相手も優しい言葉を返してくれる。そして、自分も大変気持ちが良い。特に電話は声だけの応対である。表情が分からないので、声の様子から相手の心の動きをくみ取ることになる。いらいらした気持ちはすぐ相手にも伝わってしまう。そこで、電話を通じて人と接していることを認識させ、話しかけている相手の立場や気持ちを考えて、気持ちのよい言葉遣いをしようとする態度を育てたい。また、よい言葉遣いが人間関係を高めることまで気付かせたい。

### 〈子どもの実態について〉

家庭では、親が外出しているときは、代わりに子どもが電話に出ることが多くなっている。電話は今や子どもの生活に十分密着している。特に二年生ともなると、電話に出て話すことに興味をもつ。この時期に、はきはきした気持ちのよい言葉遣いの指導を通して、明るく接することのできる子どもを育てることが大切である。

## 〈資料について〉

本資料は、主人公たけしの電話口における好ましい応対の様子を描いたものである。母にかかってきた電話、まちがい電話を受け取った主人公の礼儀正しさが明るく紹介されている。

たけしの家へ、こまつさんから電話がかかったとき、それを受けたたけしの応対がとてもよかったので、こまつさんがたけしのお母さんに、「たけし君は六年生だろうか。」と尋ねたほどであった。次に、間違い電話がかかってきたが、たけしはこれにもりっぱに应答することができる。たけしは、電話の対応に自信をもち、はりきっている。

電話のかけ方を知らせると同時に、礼儀作法の心を知り、実践できる人間になるよう指導していくうえでよい資料となっている。また、本当の礼儀作法とは、だれに対しても変わらぬものであるということも理解させたい。

## ②ねらい

人に対して、気持ちのよい言葉遣いをしようとする態度を養う。

## □板書

人にたいして気持ちのよい正しいことばづかいをしよう。

間違い電話をかけた人の顔(おじさん)

- ・ どうもすみませんでした。
- ・ れいぎ正しくて気持ちがいいなあ。

たけしの でんわ

「はい、〇〇です。」  
「どちら様ですか。」  
「おまちください。」


こまつさんの顔

- ・ 六年生のほっちゃんかしら。
- ・ とてもりっぱだわ。

「はい。」

- ・ じぶんの名前をさきにいう。
- ・ あい手の名前をたしかめる。
- ・ はっきり話す。
- ・ ようじのある人にすぐかわる。
- ・ まちがいでもわいにもていねいにこたえる。

ていねいなことばづかい



電話の絵

## ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 最近、どんな電話に出たかを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どんな人と、どんなことを電話で話したことがありますか。</li> </ul> <p>(2) 資料を読んで、たけしの電話の受け方について話し合う。</p> <p>① たけしの電話の受け方で感じたことを話してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「はい、いはらです。」と自分の名前が言えている。</li> <li>・ お母さんに電話の相手はだれかをきちんと伝えている。</li> <li>・ 間違い電話に対して、自分の電話番号をはっきり言ってあげている。</li> </ul> <p>② こまつさんは、たけしのどんなところに感心したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「はい、いはらです。」と自分の名前を言って、間違えてかけていないことが分かるようにしたところ。</li> <li>・ 相手の言ったことが分かったと答えたところ。</li> <li>・ ていねいな言葉遣いで、てきぱき話しているところ。</li> </ul> <p>③ 電話を間違えてかけてきた人は、どんなことを言ったのでしょうか。2人になって劇をしてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間違いに気付いてあやまった。</li> <li>・ たけしが自分の電話番号を言ったので、お礼を言った。</li> <li>・ とても礼儀正しい子だなと思っている。</li> </ul> <p>④ たけしは、電話を受け取るとき、いつもどんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめに自分の名前を言う。</li> <li>・ ていねいな言葉遣いに心がける。</li> <li>・ はっきりとわかりやすく話す。</li> <li>・ 正確に聞いておく。</li> <li>・ 間違い電話にも、ていねいに受け答えをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験を話し合うことにより学習への意欲がもてるようにする。</li> <li>・ たけしの電話の受け方で、よいと思ったことを発表し合うことができるようにする。</li> <li>・ ①の話し合いをふくらませ、たけしの電話の対応の良いところを具体的に出すことにより、感心した理由が理解できるようにする。</li> <li>・ 再現劇を通して間違えてかけてきた人は、たけしの応対ぶりを気持ちよく思っていることに気付くことができるようにする。</li> <li>・ 電話の応対の仕方には、決まった形があることを話し合うことにより、電話の応対で留意しなければならぬ点を目をつけることができるようにする。</li> <li>・ 礼儀は、相手に対する敬意や感謝、なつかしさなどの心の表現であることに気付くことができるようにする。</li> <li>・ 今までの生活を振り返り、自分の課題が見つけられるようにする。</li> <li>・ 電話以外の場面にも広げられるよう助言する。</li> <li>・ 好ましい事例を通して、これからの日常生活での実践意欲が高められるようにする。</li> </ul>
<p>(3) 自分たちの生活について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉遣いについてほめられたことや、失敗したことはありませんか。</li> <li>・ 電話の受け答えがよかったので、ほめられたことがある。</li> <li>・ テレビのまねをして、下品な言葉を使って注意されたことがある。</li> </ul> <p>(4) 友達の礼儀正しい事例を聞く。</p>	